令和５年度　一般社団法人 文教施設協会　優良学校施設表彰

審査講評

選考委員会 委員長　長澤　悟

１．はじめに

今日、教育に大きな変革が求められ、それを実現するためには施設環境の変革が不可欠とされています。新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方については、令和４年３月に文部科学省から調査研究報告書がまとめられています。そこでは、[学び]：主体的、協働的に学ぶ力を伸ばし、DX を生かし時間や空間の制約を超え、誰一人取り残さない教育のための学びの空間、[生活]：健康的かつ豊かで居心地よい生活の場としての空間、[共創]：地域と学校が連携することで学びを広げ、生涯学び続けられる場、[安全]：安全・安心に学ぶことができ、地域の安全を支える施設、[環境]：持続可能な世界に向け、環境配慮や脱炭素化として木材を活用した施設、という５つの課題が示され、その実現を目標とするものと言えます。すでに様々な取り組みが始まっており、好事例も生み出されつつあります。

一般社団法人文教施設協会の主催で行われるこの優良学校施設表彰事業は、上に述べた学校施設の課題、目標に対し、計画的にも、意匠的にも優れた学校施設を表彰し、それと同時に受賞作品を通じてその実現可能性、効果や意味を広く伝え、これからの学校施設整備の質的向上に資することを目的として始められました。受賞作品の選考は、こうした賞の意義に照らし、多様な専門分野による選考委員構成のもと、総合的な観点から進められました。

２．選考経緯

選考は次のスケジュールで進められました。

令和５年 ８月 10 日　公募開始

12 月 25 日　選考資料提出締切(応募総数 27 作品)

令和６年 ２月 １日　第１回選考委員会開催（オンライン）

応募資料をもとに、各選考委員は事前に選考基準に即して、特に推薦する作品３点、注目した作品５点を選び、全作品にコメントをつけ、審査会に臨んだ。

なお、公正を期すため、何らかの形で関与した作品について、その委員は評価をしないこととした。

選考委員会では各作品について意見を述べ合い、応募作品についてのコメントや順位点を参考にしながら審議を重ねた。その結果、一次選考として 12 作品を選び、ヒアリング対象とすることとした。

２月２６日　第２回選考委員会開催（オンライン）

一次選考を通過した12作品について応募者に対するヒアリングを行った。応募者のプレゼンテーションの後、質疑応答を行った。

ヒアリング終了後、委員全員による審議に移り、議論を行った。各案異なる見どころがあり、審議には時間を要したが、その結果、各賞の授賞作品として、以下の通り、最優秀賞1、優秀賞3、部門賞5の合計9作品を決定した。

最優秀賞　守口市立さくら小学校（大阪府）
優秀賞　流山市立おおぐろの森小学校（千葉県）
優秀賞　立川市立若葉台小学校（東京都）
優秀賞　岩国市立東小学校・東中学校（山口県）
部門賞「新しい教育環境」
板橋区立上板橋第二中学校（東京都）
部門賞「地域社会の中の学校」
松阪市立鎌田中学校（三重県）
部門賞「改修・既存施設活用」
川崎市立菅生小学校（神奈川県）
部門賞「改修・既存施設活用」
横浜共立学園中学校高等学校（神奈川県）
部門賞「総合」
山梨県立青洲高等学校（山梨県）
＊各学校の施設概要は 資料１.受賞校一覧 参照

３．総評

応募全27作品を学校種別でみると、小学校13、中学校5、小中併設校1、義務教育学校3、高等学校2、中等教育学校2、特別支援学校1でした。

地域別にみると東京23区の学校が10、東京23区以外の都内が4、山梨県3、神奈川県及び千葉県各2、埼玉県、三重県、福井県、大阪府、山口県、熊本県が各1でした。

設置者別では公立が26、私立が1ありました。

申込者別では設置者3、設計事務所単独19、設置者及び設計事務所連名5でした。

応募作品はいずれも学校施設づくりの課題に対して提案性のある計画となっており、受賞作品を選定するのは困難を伴う作業でした。各作品について多角的に議論を重ねた結果、相対的に高評価を得た作品が選定されました。なお、授賞されなかった作品も、受賞作品と比べ遜色なく、紙一重の差で惜しくも選考から漏れたものであったことを申し添えます。

４．各受賞作品講評

①　最優秀賞　　守口市立さくら小学校（大阪府）

応募者：守口市教育委員会　株式会社昭和設計

中庭広場を囲んで、1 階はメディアライブラリーを中心にラボと名づけたスペースが特別教室群を結び、2 階はアクティブスペースを囲んで学年ごとに普通教室を自由に配置している。学校全体の空間が緩やかにつながりながら、様々なアクティビティを喚起し、居場所が選べる仕掛けに満ちている。通り抜けのない動線計画、地域利用施設の明快なゾーニング、木質化による豊かな内部空間、分棟的な配置を生かした変化のある外観等、総合的に高く評価でき、最優秀賞に相応しい。

②　優秀賞　　流山市立おおぐろの森小学校（千葉県）

応募者：流山市教育委員会　株式会社 日本設計

大規模かつ学級数が変動する条件のもとで木造 3 階建て校舎を実現するに当って、学校づくりの目標を見失うことなく計画を行っていることは評価できる。中廊下の教室配置であるが、図書館を中心に多目的室や小教室を組み合わせて学年のまとまりを確保し、体育館・特別教室等、地域利用施設のゾーニング計画がなされている。棟、階、施設に応じて変化のある木造架構や内装木質化、ディテールや外装木質化により木造校舎の魅力を示している。木材調達の努力も評価に値する。

③　優秀賞　　立川市立若葉台小学校（東京都）

応募者：株式会社 豊建築事務所

2～4 階に 2 学年ずつ学年ユニットを配置し、中央に多目的ホールと 2 層吹き抜けのラーニング・コモンズを設け、全校の一体感と学年間交流を生み出す空間計画としている。教室に小コーナーを付属し、ロッカーを教室外の目に見える位置に置く工夫により、教室空間の有効活用を図り、多様な学習シーンに対応できるようにしている。街並みを構成する外観と開かれた外部空間、木質化により温かみのある空間、コミュニケーショントイレ等、随所に子どもの場とする工夫が見られる。

④　優秀賞　　岩国市立東小学校・東中学校（山口県）

応募者：株式会社 石本建築事務所

屋外運動場と別の校舎敷地に小中一貫校を計画するにあたり、地域利用ゾーンとなる特別教室・職員室棟、中庭を挟んで普通教室棟の 2 棟で構成されるコンパクトな配置としている。2 棟は 2 本のブリッジと、中央部の 3 層にわたり変化のある図書、ラーニング・コモンズで結ばれ、学習・交流のための学校の中心となっている。各学年スペース、特別教室周りには教室前にスペースを確保し、家具や内装に特色を持たせ、学年進行による成長、教科ごとの世界が感じられるようにしている。

⑤ 部門賞「新しい教育環境部門」　板橋区立上板橋第二中学校（東京都）
応募者：板橋区教育委員会

２校の統合にあたり、教科学習の充実、学びに向かう姿勢、共に学ぶ態度の育成を目標として教科センター方式を採用して計画された。教科メディアスペース、居場所となるホームベースが光庭を組み合わせることで実現され、限られた面積、高低差の大きい敷地条件に対し、配置を工夫して運動場面積を確保し、周囲に開かれた景観としている。設置者の学校施設に対する明確な意図が感じられる。

⑥ 部門賞「地域社会の中の学校」　松阪市立鎌田中学校（三重県）
応募者：株式会社 石本建築事務所

３層吹抜けのダイナミックな空間を中心とした内部空間構成である。明快な断面計画により１、２階の特別教室・メディアスペース・多目的ホールを地域交流センター（公民館）、福祉相談機能と融合し、すでに地域の活動場所となり、日常的な交流を生み出している。普通教室を３階に集めているが、教室配置や教室まわりの空間にゆとりがない点は惜しまれる。自然環境への配慮などにも優れている。

⑦ 部門賞「改修・既存施設活用」　川崎市立菅生小学校（神奈川県）
応募者：株式会社 豊建築事務所

片廊下型の既存校舎の制約の中、学びの多様化に対して目標を明確にし、学年のまとまりを確保して廊下と一体の空間とする、各フロアの中心にメディアセンターを配置、端部の特別教室は各学年の多目的活動室として他学年の通過を抑えるなどが提案されている。トイレの快適化、教職員スペースの充実、開放的な階段、内装木質化など、総合的に学習・生活環境を改善し、長寿命化改修の好事例と言える。

⑧ 部門賞「改修・既存施設活用」　横浜共立学園中学校高等学校（神奈川県）
応募者：学校法人 横浜共立学園　株式会社 日本設計

ヴォーリズ設計による木造３階建ての校舎を耐震補強するとともに、歴史的価値を保ちながら新しい学園づくりの中心に位置づけて計画されている。保存・修復部分を明確にした上、生徒が利用する図書館・食堂・自習室を改修によって設け、増築校舎の教室、教職員スペースと一体感のある配置とし、またその外観を景観形成に生かしている。地中熱利用により空調負荷低減を実現している点も評価できる。

⑨ 部門賞「総合」　山梨県立青洲高等学校（山梨県）
応募者：株式会社 佐藤総合計画

平屋の棟が高層棟をＬ字に囲む配置が印象的である。４階建の高層棟は普通・商業・工業という３学科の教室群がロの字型に囲み、その中心に置かれた中庭と図書

館が面するアカデミックスクエアと名づけられたダイナミックな吹き抜け空間が、一体感をもたらしている。大階段と、自習、発表、相談、交流等、生徒たちが自由に選び活動できる場が用意され、高校の空間に新しいイメージを生み出している。

５．おわりに

受賞された関係各位には心から祝意を表します。一方、惜しくも受賞には至らなかった応募者の皆様にも、優れた作品を実現されたことに敬意を表します。

応募作品は、いずれも今日の課題をよく理解され、難しい諸条件もある中で、優れた形態、魅力ある空間を伴って実現されていました。学校施設づくりに対する創意工夫と熱意が込められていることを実感いたしました。いずれも、我が国における今後の学校施設計画を先導するものと言えます。

優良学校施設表彰はゴールではなく、受賞作品を参考にした次の学校施設づくりのスタートであると考えています。全国各地でこれらに続く学校施設が整備されることを願っております。

最後になりましたが、応募していただいた関係者の皆様には、選考委員一同心より感謝と敬意を表します。

＜付＞

資料１　令和５年度 優良学校施設表彰 受賞校一覧

資料2.　令和５年度 優良学校施設表彰事業 実施要項（抜粋）